

全国の事例 コミュニティ・スクール（CS）ではこんなことが行われています

Case1 学校の課題への対応

【学校の抱えていた課題】

やりたいことや充実させたいことがあってもなかなか準備や地域人材とのやり取りの時間が取れない。

【CSでの課題解決】

先生方の「やりたい」ことを学校運営協議会へ提案。それが「学校の基本方針、教育目標の実現にどうつながるか」、「継続可能な支援の在り方とできるかどうか」を協議。授業サポートは「学園学習ボランティア」が。ゲストティーチャーや地域人材の手配はCS委員会が実施。

事例：東京都三鷹市

Case2 学校の課題への対応

【学校の抱えていた課題】

子供1人1台情報端末の環境整備は進んできたが、捜査のサポートやプログラミング教育への対応が思ったように進まない

【CSでの課題解決】

企業退職者や研究者などITスキルに長けた地域の人材に、学校応援団としての協力を依頼。学校応援団によるプログラミング教育へのアドバイスやサポートなどを受けて効果的な授業を実践。

事例：埼玉県ふじみ野市

Case3 地域課題への対応

【地域の抱えていた課題】

子供たちが地域と関わる機会、ふるさとを知り学ぶ機会が減少し、地域への愛着が育たない。

【CSでの課題解決】

地域の協力のもと地元の自然や歴史・文化を学ぶ「まち未来科」カリキュラムを設定し、子供たちのふるさとへの愛着や社会参画力を育成。

事例：鳥取県南部町

その他にもコミュニティ・スクールに関する詳細な情報や全国の事例等が文部科学省のHPに掲載



<https://manabi-mirai.mext.go.jp/>



出典：文部科学省「地域と学校の連携・協働の推進に向けた参考事例集」
全国コミュニティ・スクール連絡協議会×文部科学省「学校と地域の課題解決につながるコミュニティ・スクールの推進」

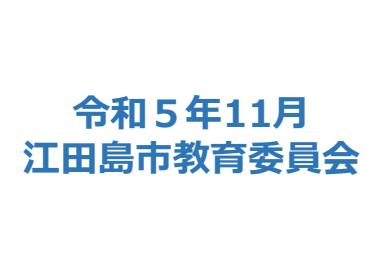
江田島市のコミュニティ・スクール導入計画

- 令和4年度 江田島市学校運営協議会規則制定
- 令和5年度 中町小学校において学校運営協議会設置の準備開始
- 令和6年度 中町小学校において学校運営協議会設置
その他、順次導入可能な学校において学校運営協議会設置
- 令和7～8年度 全ての小中学校において学校運営協議会設置

コミュニティ・スクールの導入

「開かれた学校」から
更に一步踏み出し
地域と一体となって
子ども達を育む
「地域とともにある学校」へ

江田島市では
コミュニティ・スクールの導入
を進めていきます。

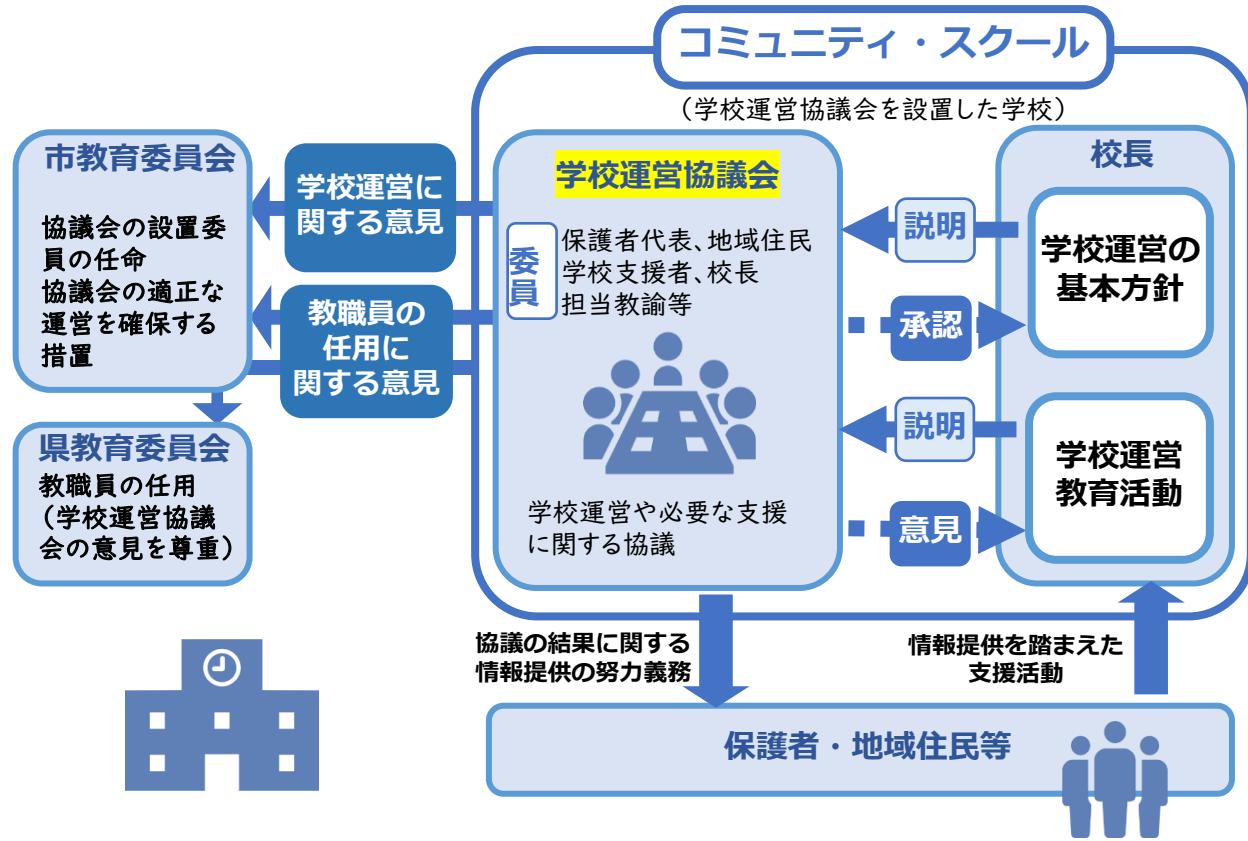


令和5年11月
江田島市教育委員会

コミュニティ・スクール（CS）って何？

子供たちの未来の創造に向け、学校と地域がパートナーとなって取組を進めていくための新たな仕組みです

コミュニティ・スクールは、学校運営協議会を設置した学校のことを言います。学校運営協議会とは、保護者代表、地域住民、学校支援者、校長、担当教諭などの委員で構成された合議制の組織です。法律に基づいて教育委員会から任命された委員が、一定の権限と責任をもって、学校の運営とそのために必要な支援について協議し、協働します。



これまでとどう変わる？

「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」へ進化します

保護者や地域の方々が一定の権限をもって学校運営に参画し、「目標やビジョン」を共有して、社会総がかりで子供たちの育成や学校運営の改善を進めていくことをめざしていきます。

学校・家庭・地域が連携を深めるために大切な3つの視点

熟議

関係者が当事者意識をもって「熟議(熟慮と議論)」を重ねることが大切になります。

協働

学校運営に地域の人々が共有した目標に向かって「協働」することが大切になります。

マネジメント

校長が強いリーダーシップを発揮できるよう「マネジメント」を強化することが求められます。

どんなメリットがある？

子供を中心に学校づくり・地域づくりを考えることで、次世代の地域づくりが推進されます

少子高齢化により社会は激しく変化しています。そのような中、学校や子供たち、そして地域それぞれに課題を抱えています。コミュニティ・スクールの導入はこれらの課題解決の一助となり、次世代の地域づくりの推進にもつながります。

それぞれの立場にメリットがあります

地域

- 学校を核とした新たな地域ネットワークが形成され、地域の課題解決につながります。
- 地域に住む人たちが、学校という場において、それぞれの経験を生かすことで生きがいや自己有用感が生まれます。
- 地域でのつながりが増え、防犯・防災体制等の構築にもつながります。

学校

- 地域の人々の理解と協力を得た学校運営や「社会に開かれた教育課程」の実現が可能となります。
- 地域人材を活用した教育活動が充実します。
- 地域の協力により子供と向き合う時間が確保できます。

子供

- 地域の方の協力を得て、学びや体験活動が充実します。
- 地域の人とつながることで他人を思いやる心が育ちます。
- 地域の担い手としての自覚が高まります。
- 地域の力を借りた防犯・防災等の対策によって、より安心・安全な生活ができます。

保護者

- 地域の中で子供たちが育てられているという安心感があります。
- 保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できます。
- 地域に対する理解が深まり、家庭教育との相乗効果が生まれます。

どんな年間の動きになる？

定期的に学校運営協議会を開催し、情報及び課題や目標を共有しながら熟議を重ね、協働して様々な取組を実行していきます。

例 5月頃 第1回学校運営協議会

- ・学校運営に関する基本方針の承認
- ・地域と学校の協働活動の協議
- 例) ◆郷土学習について ◆交通安全について ◆環境整備について ◆学習支援について 等
- ・学校や教育委員会への意見の申出

(随時 地域と学校で協働活動)



10月頃 第2回学校運営協議会

- ・前期の様子報告
- ・後期に向けた学校運営に関する協議
- ・学校や教育委員会への意見の申出

(随時 地域と学校で協働活動)
(学校評価の実施)



2月頃 第3回学校運営協議会

- ・今年度の振り返りおよび学校評価の報告
- ・次年度に向けて